様式３

令和７年度　教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数							非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち作業療法士数	助手		
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科 作業療法学専攻	４人	２人	２人	１人	９人	６人	８人	０人	共通 23 人 専門 15 人	9.2 人	
計	４人	２人	２人	１人	９人	６人	８人	０人	62 人	－	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
〇	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	新入生入門セミナー	15	石黒　友康　他 リハビリテーション学科専任教員	専任
		心理学	8	中野　良哉	専任
		教育学Ⅰ	15	高岸　憲二	兼任
		医療と倫理	8	相澤　徹	兼任
		健康科学実践	15	有光　一樹	専任
		コミュニケーション論	8	石川　裕治	専任
		社会学	8	玉里　恵美子	兼任
		ジェンダー論	8	佐藤　洋子	兼任
		国際協力論	8	秋山　純和	専任
		ボランティア実践	15	秋山　純和 平松　真奈美 光内　梨佐	専任
		コミュニティ・コミュニケーション実践	8	池　聡	専任
		生物学	8	安藤　千速	兼任
		統計学	8	高地　正音	専任
		情報処理演習	8	高地　正音	専任

基礎分野	科学の思考と基盤 人間と生活 社会の理解	情報リテラシー	8	笹村　聡	専任
		英語	15	谷　富貴	兼任
		英会話入門	8	ショーン・バーゴイン	兼任
		中国語入門	8	前田　正也	兼任
		韓国語入門	8	金　美映	兼任
		日本語リテラシー	8	公文　素子	兼任
		生命倫理	15	相澤　徹 明﨑　禎輝	専任
		リーダーシップ論	8	栗山　裕司	専任
		地域課題研究Ⅰ	8	重島　晃史 笹村　聡 池　聡	専任
		地域課題研究Ⅱ	23	辻　美和　他 リハビリテーション学科 専任教員	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ（筋・骨格系）	15	中根　裕信	兼任
		解剖学Ⅱ（神経・内臓・脈管系）	15	中根　裕信 田中　健二朗	兼任
		生理学	15	渡部　嘉哉	兼任
		運動学	15	重島　晃史 笹村　聡	専任
		運動学実習	15	笹村　聡	専任
		運動生理学	8	秋山　純和	専任
		運動生理学実習	15	有光　一樹 笹村　聡	専任
		人間発達学	8	中野　良哉	専任
		医学英語	8	上羽　由香	兼任
		運動生理学実習	15	有光　一樹 笹村　聡	専任
		運動機能学実習	15	相澤　徹	専任
		作業療法運動学演習	8	大塚　貴英 笹村　聡	専任

専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	8	渡部　嘉哉	兼任
		内科学	15	竹中　奈奈	兼任
		整形外科学	15	相澤　徹	専任
		臨床神経学	15	上村　直人	専任
		精神医学	15	上村　直人	専任
		小児科学	8	三宅　典子	兼任
		リハビリテーション医学	8	上村　直人　他 リハビリテーション学科専任教員	専任
		臨床心理学	15	中野　良哉	専任
		画像診断学	8	宮川　哲夫 上村　直人 相澤　徹	専任・兼任
		臨床栄養学	8	新谷　美智	兼任
		臨床薬理学	8	小野川　雅英	兼任
		救急管理実習	15	吉岡　邦展 中野　大智	兼任
	保険医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	石黒　友康	専任
		地域包括ケア論	15	川上　理子 森下　幸子	兼任
		チーム連携論	8	明﨑　禎輝 笹村　聡 上松　智幸	専任
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	8	平松　真奈美 足立　一 辻　美和 篠田　かおり 大塚　貴英	専任

専門分野	基礎作業療法学	生活活動と障害演習	8	平松　真奈美 笹村　聡	専任
		作業療法セミナー演習	8	辻　美和　他 作業療法学専攻専任教員	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	8	平松　真奈美 矢野　勇介	専任・兼任
		作業療法管理実務	8	細川　忠	兼任
	作業療法評価学	基礎作業療法評価学	15	平松　真奈美 足立　一 大塚　貴英	専任
		作業療法評価実習Ⅰ（身体系）	23	有光　一樹 金久　雅史	専任
		作業療法評価実習Ⅱ（精神・認知系）	15	足立　一 辻　美和	専任
		作業療法評価実習Ⅲ（発達系）	15	篠田　かおり	専任
	作業療法治療学	作業分析学	8	篠田　かおり	専任
		作業分析演習	8	篠田　かおり	専任
		基礎作業療法治療学実習Ⅰ（身体系）	15	有光　一樹	専任
		基礎作業療法治療学実習Ⅱ（精神・認知系）	15	足立　一 辻　美和	専任
		作業療法日常生活活動学	8	大塚　貴英 足立　一 篠田　かおり	専任
		日常生活支援作業療法実習	15	大塚　貴英 足立　一 篠田　かおり	専任
		義肢・装具作業療法実習	15	大塚　貴英	専任
		身体障害作業療法実習Ⅰ（中枢神経系）	23	有光　一樹 金久　雅史	専任

専門分野	作業療法治療学	身体障害作業療法実習Ⅱ（脊髄・運動器系）	23	大塚　貴英 石元　美知子 佐藤　信治	専任・兼任
		身体障害作業療法実習Ⅲ（内部系）	15	金久　雅史	専任
		精神障害作業療法実習Ⅰ	15	足立　一	専任
		精神障害作業療法実習Ⅱ	15	辻　美和	専任
		老年期障害作業療法実習Ⅰ	15	辻　美和	専任
		老年期障害作業療法実習Ⅱ	15	辻　美和	専任
		発達障害作業療法実習	15	篠田　かおり	専任
		高次脳機能障害作業療法実習	15	岡村　忠弘	兼任
		臨床作業療法技法実習Ⅰ（PBL）	15	辻　美和 篠田　かおり	専任
		臨床作業療法技法実習Ⅱ（PBL）	15	辻　美和 大塚　貴英 金久　雅史	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学	15	平松　真奈美	専任
		地域作業療法学演習	8	金久　雅史	専任
		生活環境支援作業療法実習	15	大塚　貴英 笹岡　和泉	専任・兼任
		機能代償支援作業療法実習	15	有光　一樹 土居　道康 篠森　丞	専任・兼任
		就労支援作業療法演習	8	足立　一	専任
		生活活動マネジメント	8	平松　真奈美	専任
	臨床実習	作業療法臨床実習Ⅰ（見学実習）	45	辻　美和　他 作業療法学専攻専任教員	専任
		作業療法臨床実習Ⅰ	90	辻　美和　他 作業療法学専攻専任教員	専任
		作業療法臨床実習Ⅱ	270	辻　美和　他 作業療法学専攻専任教員	専任

専門分野	臨床実習	作業療法臨床実習Ⅲ	720	辻　美和　他 作業療法学専攻専任教員	専任
展開科目		ロボット技術活用論	15	江里口　優	兼任
		地域生活とサービス	15	中本　雅彦	兼任
		精神障害者の援助とサービス	15	足立　一	専任
		障害者の社会環境と制度	15	遠山　真世	兼任
		地域防災論	15	金久　雅史	専任
		更生保護制度論	15	足立　一 加藤　誠之	専任・兼任
		特別支援教育論	15	石山　貴章	兼任
		対人援助技術論	15	西内　章 西梅　幸治	兼任
総合科目		作業療法地域支援実習	15	辻　美和　他 作業療法学専攻専任教員	専任
		応用作業療法学演習	30	辻　美和　他 作業療法学専攻専任教員	専任
		作業療法総合演習Ⅰ	15	篠田　かおり	専任
		作業療法総合演習Ⅱ	15	足立　一	専任
		作業療法総合演習Ⅲ	15	有光　一樹 金久　雅史	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3

	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
作業療法の実践内容及び業務の見学・体験 作業療法臨床実習Ⅰ（見学実習）	1年前期	リハビリテーション概論	1年前期
		作業療法概論	1年前期
		生活活動と障害演習	1年前期
		臨床作業療法技法実習Ⅰ（PBL）	1年前期
作業療法の実践内容及び業務の見学・体験 作業療法療法実習Ⅰ	2年後期	リハビリテーション概論	1年前・後期
		作業療法概論	1年前期
		生活活動と障害	1年前期
		基礎作業学実習	1年前期
		応用作業学実習	1年後期
		作業療法セミナー	1年後期
		臨床作業療法技法実習Ⅰ（PBL）	2年前期
対象者の評価、結果の統合と解釈、その記録・報告等の作業療法評価過程の見学と実践	3年後期	基礎作業療法評価学	2年後期
		作業療法評価実習Ⅰ（身体系）	2年前期
		作業療法評価実習Ⅱ	2年前期

作業療法臨床実習Ⅱ		（精神・認知系）	
		作業療法評価実習Ⅲ（発達系）	2年後期
		作業療法日常生活活動学	2年後期
		臨床作業療法技法実習Ⅱ（PBL）	3年後期
対象者の評価、結果の統合と解釈、治療計画の立案と実勢、その記録・報告等の作業療法の一連の過程の実践 作業療法臨床実習Ⅲ	4年前期	基礎作業療法評価学	4年前期
		作業療法評価実習Ⅰ（身体系）	2年前期
		作業療法評価実習Ⅱ（精神・認知系）	2年前期
		作業療法評価実習Ⅲ（発達系）	2年後期
		作業療法日常生活活動学	2年前期
		臨床作業療法技法実習Ⅱ（PBL）	3年前期
		作業分析学	2年前期
		作業分析演習	2年後期
		基礎作業療法治療学実習Ⅰ（身体系）	2年後期
		基礎作業療法治療学実習Ⅱ（精神・認知系）	2年後期
		作業療法日常生活活動学	2年前期
		日常生活支援作業療法実習	2年後期
		義肢・装具作業療法実習	2年後期
		身体障害作業療法実習Ⅰ（中枢神経系）	3年前期
		身体障害作業療法実習Ⅱ（脊髄・運動器系）	3年前期
		身体障害作業療法実習Ⅲ（内部系）	3年前期
		精神障害作業療法実習Ⅰ	3年前期
		精神障害作業療法実習Ⅱ	3年後期
		老年期障害作業療法実習Ⅰ	3年前期
		老年期障害作業療法実習Ⅱ	3年後期
		発達障害作業療法実習	3年前期
		高次脳機能障害作業療法実習	3年後期
		地域作業療法学	2年後期
		地域作業療法学演習	3年前期
		生活環境支援作業療法実習	3年前期

		機能代償支援作業療法実習	3 年後期
		就労支援作業療法演習	3 年後期
		作業療法管理学	3 年後期
		作業療法管理実務	4 年前期
通所・訪問リハビリテーション における作業療法の実践内容及び業務 の見学・体験 作業療法臨床実習Ⅰ 作業療法臨床実習Ⅱ 作業療法臨床実習Ⅲ 上記のいずれかで 1 単位（45 時間） 履修	2 年後期 3 年後期 4 年前期	リハビリテーション概論	1 年前・後期
		作業療法概論	1 年前期
		生活活動と障害	1 年前期
		日常生活支援作業療法実習	2 年後期
		地域作業療法学	2 年後期
		地域作業療法学演習	3 年前期
		精神障害作業療法実習Ⅰ	3 年前期
		精神障害作業療法実習Ⅱ	3 年後期
		老年期障害作業療法実習Ⅰ	3 年前期
		老年期障害作業療法実習Ⅱ	3 年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2

	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	内部質保証委員会
委員名（委員長）	（1）学長 （2）学部長 （3）教務部長 （4）学生部長 （5）図書館長 （6）国家試験対策部長 （7）学科長 （8）各専攻長 （9）事務局長 (10) IR 推進室長 (12) 学長が委嘱する教職員 委員長は、学長が指名する。
組織の開催頻度	毎月１回会議を開催
組織の取り組み内容	（1） 自己点検・評価の基本方針及び実施計画の策定に関する事項 （2） 自己点検・評価の実施ならびに報告書の作成に関する事項 （3） 内部質保証の基本方針に関する事項 （4） 内部質保証の体制に関する事項 （5） 内部質保証の仕組みに関する事項 （6） 内部質保証の推進に係る諸情報の活用に関する事項 （7） 認証評価及びその他第三者評価に関する事項 （8） その他、自己点検・評価に関する事項 （9） その他、内部質保証に関すること
自己点検・評価結果の公表	ＨＰで公表（URL：https://kpur.ac.jp/about/johokokai/）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	教務部長、教務課長、学長が委嘱する教職員
	改善の仕組みの実際	シラバスの必要性、役割、作成方法等を記載した「シラバス作成ガイドライン」を作成し、シラバスが PDCA サイクルにおいて重要な意味を持つことを、科目担当教員に説明している。科目担当教員が作成したシラバスは、教務課ならびに教務委員長にて点検を実施し、不明瞭な点等が確認された場合は、修正のうえで公表する仕組みを取っている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価の結果について、全教職員で共有するとともに、内部質保証委員会において、課題を洗い出し、改善に向けた検討を行う。

検討結果については、必要に応じて運営会議や教授会において報告を行うとともに、具体的な取り組みについて協議を行い、改善に繋げていく。